

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 川崎市青少年の家共同運営事業体 公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 金井 刚夫 川崎市中原区今井南町514-1 ・構成員名 特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター 理事長 宮田 遼 川崎市高津区下作延5-11-8	評価者	青少年育成課長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	市民・こども局こども本部子育て施策部青少年育成課

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 40,783人 (うち宿泊 27,080人) (うち日帰 13,703人)	②年間延べ利用団体数 948団体 (うち宿泊 405団体) (うち日帰 543団体)
収支実績	1 収入 指定管理料 70,780,823 利用料金収入 134,679,25 その他収入 2,325,215 合 計 86,573,963	2 支出 人件費・賃金 10,822,085 光熱水費 20,829,981 委託費 29,616,567 消耗品費 1,006,559 修繕費 1,743,355 その他経費 22,312,584 合 計 86,331,131 差引 242,832
サービス向上の取組	利用者アンケートを分析し、改善できる部分は早急に対応する事で、サービスの向上に努めている。また、スポーツ用具等を中心に整備し、利用者の活用に供していた。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
(評価の理由) 「こどもエコチャレンジクラブ」を年間12回開催し、様々な得意分野を持つシニア世代の利用者が子ども達に指導した(当初予定外)。これにより、環境への意識を高めるだけではなく、参加者である小学生と、ボランティアサークル(青年)、シニア世代の利用者で世代間交流が自然と達成できていた。 前年と比較すると利用者数が微減しているが、第1期指定管理時(H18年度～H22年度)の平均利用者数(37,019人)と比較すると約10.2%の増であり、高い利用率を維持している。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	4	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) 指定管理者の内規に基づく、適正な会計処理が行われた。 概ね計画どおりの経費執行であった。					
サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) 6ヶ月先までの施設の空き状況をホームページで閲覧できるようにし、ダウンロードできる書類の数を増やすことで、申込者数の増に繋げた。 学校や行政機関との連携が図られていた。 アンケートの結果を運営に反映させるだけではなく、改善点をホームページ上に掲載する事で、利用者にアピールした。					

組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか			3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由)	(評価の理由) 適正な職員配置を行い、予定どおりの研修が実施された。 また、個人情報の取扱いについて、内規に基づき適切な運用がなされた。			
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) 修繕の必要な箇所を把握し、適正な修繕を行っていた。 事故等が発生した場合のマニュアルが整備され、適切な対応がなされていた。 防犯に係る緊急時のマニュアルが整備されており、計画にある防犯のための取組が実施されていた。 災害発生時のマニュアルが整備されており、法定訓練等が実施されていた。					

注) 配点×(評価段階／5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	63	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(90点以上):特に優れている、B(80点以上90点未満):優れている、
C(60点以上80点未満):適正である、D(40点以上60点未満):改善が必要である、
E(40点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

これまでに積み上げてきたノウハウを生かし、充実した事業展開を実施していた。青少年ボランティアを育成し、事業に参画させることで、青少年の社会参加が図られるなど、専門性を十分に發揮した事業展開を行っている。また、利用者へのサービス向上に向け、広報の工夫や、アンケートの分析による早期改善対応等の実施が見られた。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、青少年の宿泊研修及び体験学習のために適切な管理運営を行うこと。各種広報媒体等の更なる充実に努めること。
大規模災害にも備えた防災体制の強化に努めること。